

平成26年度 中川運河助成 ARToC10

アートプログラム実施報告

中川運河の魅力向上につながる現代アートへの助成「中川運河助成 ARToC10」にて、平成26年度に実施された3件を紹介します。

中川運河 映像アーカイヴ プロジェクト

伏木 啓+木田 歩

「映像インスタレーション “waltz 2014”」と題したこのプロジェクトは、夜間に中川運河の水面を利用して行われ、観客は夜景の中に浮かび上がるスクリーンと、光に照らされて揺らめく水面を近くの空き地や橋の上から観賞する仕掛けとなっていました。

筏に載せて水面に浮かべられた縦6m・横2mの大きな6つのスクリーンには、中川運河にゆかりのある人々や風景などの映像が映し出されていました。鑑賞者は中川運河沿いに佇みながら、中川運河がもつ歴史、関わってきた人々の思いを同時に感じる事ができたのではないのでしょうか。



Nature / Landscape / Human

一般社団法人 中川運河チャンネルアート

舞踊家の浅井信好さんを中心とした国内外のアーティストが、リンナイ旧部品センターと中川運河長良橋北側の水面を利用してパフォーマンスを行いました。

リンナイ旧部品センター内で行われたパフォーマンスは、ダンサーやスタッフを始めあらゆる物の個性を極力排除することで調和を生み出すことを試み、観客のスタンスを「観る」から「感じる」へと変化させ、「感じる空間」へと変容させました。

また、屋外で行われたパフォーマンスでは、運河上に浮かべたステージが舞台となりました。夜景の中、照明に照らされたステージとピアニストによる演奏に観客は魅了されていました。



limicoline Art project (リミコライン・アート・プロジェクト)

N-mark (エヌ・マーク)

中川運河の畔に建つ運河で唯一屋上から運河を見渡せる空き物件を再生・活用し、「中川運河の空間コード」をキーワードにアート作品の展示やフィールドワーク、レクチャー等が行われました。

アート作品の展示では、クレメンス・メツラーさんは中川運河の現在の写真を加工し、古き良き時代の運河を、近藤美和さんは綿密なリサーチによって中川運河の町並みや風景等の「見えるもの」と、今は無くなってしまった「見えないもの」を表現していました。

中川茶屋一人造石復刻ワークショップは、中川運河の歴史的技術遺産である長七たたきの壁を有識者やボランティアを巻き込み制作し、完成した茶屋には多くの鑑賞者が訪れました。



平成26年度

まちづくり活動助成団体紹介

地域“魅力”アップ部門



山車の上で行われたアーティストトークの様子



製作したベンチの活用の様子

長者町アートアニュアル実行委員会

戦後、日本三大繊維街の一つとして発展し、問屋街のイメージが強い長者町界隈は、まちづくり活動などを通し、そのイメージは多様化しつつあります。長者町アートアニュアル実行委員会は、あいちトリエンナーレ2010終了直後、継続的なアートまちづくりを推進するためにまちの有志で結成された任意団体です。

「真夏の長者町大縁会」の共催、えびす祭りでの山車（作品）の運行、アート作品のまちかど展示、製作したベンチやインフォメーションラックの設置など「アート」と「出会い」、「おもてなし」をまちの内外に積極的に取り入れる活動を行っています。今年度は「あいちトリエンナーレ2013」で、まちが保存を決めた作品の解説パネルの制作やアーティストトーク、まちのホームページ制作等、長者町やアートまちづくりに関する情報発信にも取り組んでいます。

お問合せ先 | 古谷 萌子 e-mail choja.art.an@gmail.com